

第8回SICFグランプリ

佐藤誠高展「ニュートラル グレイ」開催

2007年10月27日(土)～30日(火) ショウケース(スパイラル1F)



<http://www.spiral.co.jp/sicf/>

この度、スパイラル／株式会社ワコールアートセンターは、2007年5月に開催しました第8回SICF（スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル）のグランプリ受賞者、佐藤誠高（さとう なりたか）の展覧会を10月27日（土）から30日（火）までスパイラル1Fショウケースで開催する運びとなりました。

写実的な表現を可能にする高度な技術に注目

佐藤誠高がSICFに出展した作品は、一見写真とも見間違えるほど高度な技術でリアルに描写した絵画です。描く対象には、若干の歪みがかえられているので、鑑賞者に違和感を感じさせます。

「ニュートラル グレイ」展では、“赤ちゃん”と“女子高生”を題材とした大型の新作、3作品を発表します。展覧会のタイトルにある「グレイ」は、確かなものとして見ている世界が、実は不確かなものであることを発見する、そのときの違和感や曖昧さを表しています。

SICFでは作品を目にして、思わず立ち止まり凝視する来場者の様子が多く見られました。写真と絵画というメディアの間を往還していること、人工的に加えられた歪曲によって生じた「ズレ」がリアリティと表現といった様々なアートをつなげる要素を孕んでいることが高く評価されました。

リアルな世界の違和感を表現

「“写真－絵画” “現実－非現実” “自然－人工”といった対極にあるそれぞれの項目の境界を曖昧なものとし、一つの世界・一つのものの中にバランス良く融合されることを意識して制作しています。それぞれの項目のどちらの意味とも解釈できる、またはどちらも言い切れない微妙なバランスで融合させることにより作品の中に“違和感” “曖昧さ” “矛盾” “歪み” 等といった抵抗感が表出するのではないかと。 “赤ちゃん” や “女子高生” のような活発で無邪気なイメージを題材にすることで、より違和感が強調されるのではないかと佐藤は語ります。

私たちを取り巻く現実を「みる」行為について、改めて考えるきっかけを与えてくれる作品です。



佐藤誠高 第8回SICF出展作品

上：「2人の女性」2006 810mm×1167mm

下：「2人の女性」2006 652mm×910mm

鉛筆、チャコールペンシル、アクリル



【グランプリ受賞者略歴】

佐藤 誠高（さとう なりたか）

1980年愛知県生まれ。

2006年3月

東京藝術大学美術学部デザイン科卒業

現在、東京藝術大学大学院2年

主なグループ展

2007年 新生堂（東京・青山）

2003年 アートスペース羅針盤（東京・京橋）

2002年 GEISAI 2

主な受賞歴

2007年 第8回SICF グランプリ

2002年 GEISAI 2 リキテックス賞

SICFとは

スパイラルが次世代のカルチャーシーンの担い手を発掘する目的で、2000年にスタートした公募展形式のアートイベントです。第8回SICFは、2007年5月2日から5日まで、スパイラルホールで開催し、自由な感性で質の高い創作活動を行うクリエイター100組にプレゼンテーションの場を提供しました。

この件に関するお問い合わせ

株式会社ワコールアートセンター

広報部 渡邊、清水

〒107-0062 東京都港区南青山5-6-23

Tel: 03-3498-5605 Fax: 03-3498-7848

E-mail: press@spiral.co.jp

【佐藤誠高作品に寄せる審査員のコメント】（50音順）

◆浅井隆（アップリンク主催）

「虚実の差異」は、現代美術のテーマの王道である。
人物を写真に撮り、その写真を見て絵を描いたら手の痕跡が加わり写真と違う絵になった。
その写真と絵の「虚実の差異」が「現代美術」なのだろう。
この作品はそのことを明解に示してくれる。

◆佐藤尊彦（INTERNATIONAL GALLERY BEAMS 兼 B GALLERY プランナー）

コンセプトが重視されるアートですが、それ以前に彼のセンスと画力には脱帽した。
ここ最近の受賞傾向は「新しいコミュニケーションツールの模索」から「手間と時間を掛けた作品」へと変化してるが、個人的には、技術面での更なる完成度を求める心が芽生えていた。そんな気分で臨んだ今回のSICFでは他の出展作品にも様々な魅力を感じたが、彼の作品には圧倒的な魅力と、胸の竦む感覚を覚え、記憶に深く残っている。コンセプト、センス、技術の何か一つが欠けても、“今後に期待の新人”の域を出ることは出来ない。この三位一体が成り立つ彼の作品には、今年度のグランプリが最も相応しいと思う。今後の成長が最も楽しみな“作家”の一人である。

◆南條史生（森美術館館長）

今回のグランプリは、佐藤誠高氏の派手ではないが、極めてシリアスな作品が受賞することになった。出品作は一瞥すれば鉛筆で描いた写実的なポートレートだが、なぜか現実とは違う違和感をたたえ、不可解な印象を与える。ポートレートは一人の人間の顔の反面を、そのまま反対側に反転させて移し、そこでできた顔を描く。また一方でその反対側の反面を同様にして、一つの顔に仕上げるというプロセスを経て作られたものだ。そこには、真実と写実、現実と錯視、鏡像と反復といったさまざまな議論を喚起する重層的な構造が隠されている。そしてそれは、結局表現とはなにか、表象とは何かを問うことになるだろう。
SICFは、デザイン、工芸、アートの了解を超えるユニークな問いかけの場であるから、毎回どのような傾向の出展物が評価されるか予測できない。しかし印象に残るものは、審査員の趣味嗜好を超えて評価される。今回のグランプリも、審査員の議論を重ね全員の支持を得て受賞となった。
今後の活躍を期待したい。

第8回SICF ゲスト審査員

◆赤池学（科学技術ジャーナリスト）

絵画なのか、写真なのか。同一人物なのか、双子なのか、はたまた別人なのか。わずかな描線の違いが生み出す、異化された被写体は、眼というセンサーと認知する脳の心地よい混乱を招き寄せ、私たちの好悪の感覚の根元的な危うさを突きつけてくれる。それは同時に、私たちの描くという行為が、永遠に個人の人格に辿り着けない事実、そして人格そのものの多元性をその都度創造する、愚かしくも崇高な作業であることを私たちに教えてくれるのだ。写真の如く創作された幽霊の絵に、私たちはそれが虚構の絵画であることを知っていながら恐怖してしまうのも、手品師の漫画に興味を覚え、トリックの種を探ろうとするのも、眼と脳の解離が生み出す、極めて人間的な行為なのだ。ファインアートとは何なのかを、改めて考えさせるこの作品は、グランプリにふさわしいファインアートの挑発である。

◆野宮真貴（シンガー）

今回初めて審査員として参加させていただき、出品された作品たちのクオリティの高さに驚かされました。さまざまなジャンルからの出品で、非常に難しい審査ではありましたが、その中でもグランプリを獲得された佐藤誠高さんの作品は、見るものを惹きつける不思議な引力のようなものがあり、アートとしての着眼点・その表現方法ともに優れていたものです。今後の活躍を期待しています。

【開催概要】

- ◆タイトル 第8回SICFグランプリ 佐藤誠高展「ニュートラル グレイ」
- ◆会 期 2007年10月27日(土)～30日(火)
11:00～20:00 無休
※26日に招待者のみのオープニングパーティを開催
- ◆会 場 ショウケース
東京都港区南青山5-6-23 スパイラル1F
東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道駅」
B1出口前もしくはB3出口より渋谷方向へ1分
- ◆お問い合わせ 03-3498-1171 (スパイラル代表)
- ◆主 催 株式会社ワコールアートセンター
- ◆企画制作 スパイラル

【テイクアートコレクション・ドットコムにて作品販売開始】

本展覧会に先立ち、佐藤誠高の作品を、スパイラル／株式会社ワコールアートセンターが運営するウェブサイト、テイクアートコレクション・ドットコムにて先行販売します。テイクアートコレクション・ドットコムは、日本の現代美術作家によるペインティングや写真などの美術作品を紹介・販売するインターネットギャラリーです。

- ◆販売開始 2007年9月25日(火)
- ◆U R L [takeartcollection](http://www.takeartcollection.com/jp) <http://www.takeartcollection.com/jp>
- ◆お問い合わせ office@takeartcollection.com

【第9回SICF参加クリエイター 募集日程が決定】

来年度、2008年5月2日(金)～5月5日(月)に開催する、第9回SICF参加クリエイターの募集日程が決定しました。美術、デザイン、ファッション、音楽、映像、CG等、あらゆるジャンルの表現から、次世代のカルチャーシーンを担う作品を広く募集いたします。

- ◆募集要項配布開始 2007年10月27日(土)
- ◆公募期間 2007年12月1日(土)～2008年2月29日(金)
- ※第9回SICF開催日程 2008年5月2日(金)～5月5日(月)